

— 真の更生を目指して —

オリーブの家と農業

オリーブの家が最初に土いじりをしたのは、オリーブの家が在る「コーポ池田」というアパートの、ほんの小さな荒地の開墾でした。開墾とは大げさで、1メートル程に生え茂った雑草取りから始めたのです。それはオリーブの家がスタートして半年ほど経った時のことでした。

ファミリーと一緒に草をむしり、二坪ほどの荒地を掘り起こしました。石がゴロゴロ出てきますし、畑、草花を植えるのに適した土地とはけっして言えません。それに、陽が当たるといっても西陽がほんの一時間ほどだったのです。

まずそこに花を植えることから始めました。そして年が明け、春を迎える頃に、中川先生ご夫妻をお迎えしました。その時は少し花壇らしくなり、それを得意になってお見せした記憶があります。

中川先生の奥様から、「二階の廊下にプランターを置いたら綺麗ですね」と助言を頂き、そのプランターには今も綺麗な花が咲いています。

高齢のSさんがオリーブの家に来たのが今からちょうど2年前の夏の事です。彼の夢は「畑で作物を育てる！」ことでした。彼がファミリーとなってすぐ「小さくて良いので少し畑を貸してください」と、近隣の農家にお問い合わせに行ったのですが、なかなか場所が見つかりませんでした。しかし、Sさんの想いは強く、徐々に道は開かれました。コーポ池田のオーナーさんが変わったのもこの時期です。敷地内の狭い空き地で畑づくりをお願いしました。そして、二坪程の地を耕し、大根、人参、じゃがいもの収穫が始まったのです。

近頃、Tさんという作物を育てたいという方がオリーブの家にファミリーとして入りました。土地が足りないぐらいに土いじりを楽しむお二人です。オリーブの家の前の土手の小さな空間にも花を植え、道行く人に楽しませています。

そんな折、熊本更生保護協会の方が、オリーブの家が畑を探している事を聞き、関係者の方から熊本の住宅地の一角にある80坪の土地を無償で借りるためにご尽力下さいました。その準備に入ったのが今年の3月でした。

徐々にその手続きも整っていきました。農業委員会から指導を受け、残すは地域住民の承諾を得るだけです。わくわく気分です。地区公民館に更生保護協会の方、土地を提示してくださった方、私達夫婦の4人で趣旨の説明に行きました。しかし、このほか地域住民の反対が強く、その土地での農業は残念ながら断念するに至りました。

しかし、神様はなんと素晴らしい方なのでしょう！素人集団には任せられんとばかりに、県の農業指導をしているH先生が、その農業指導ばかりでなく、畑も無償で提供して下さることになったのです。H先生は大きなごっつい手で「青木さんやりましょう！」とよく握手をしてくれました。

7月19日、第一回目の農作業に5人で向かいます。ハレルヤ！



オリーブの家
理事長
青木康正

ファミリーの声

イエス様は塀の中で毎日働かれます。ハレルヤ！

●私はこの度の受刑生活で色々なものをうしなしました。今はキリスト教に接することで平常を取り戻しています。

出所後の事は、まだ何も決まっておらず不安一杯の毎日ですが、そんな折り、「オリーブの家」の存在を知りました。文通の支援活動をされているのであれば、文通出来ますよ。是非お考え下さい。また月刊誌を発行されているのであればお送り頂けたら幸いです。オリーブの家が希望の灯りとなって、私を導いて下さる事を願います。(Tさん)

●突然お手紙を差し上げます失礼をお許し下さい。この程、貴所のことを知りました。おおよそのことは拝察申し上げますが、私ごとき老境に入って、あまつさえ意志の軟弱な者に貴所との関りを持つ資格はあるのだろうか、逡巡致し

ておりましたが、案ずるより生むが易しと、一筆差し上げることとさせていただきます。

長く矯正施設に身を置き、何年目の夏を迎えるでしょうか？ 還暦も過ぎ、些かなりとも望みあるならば、社会復帰への機会を捨てきれず探っております。つきましては、これまで教誨を受けることにて、細々とはありますが、触れ合わせていただいておりますキリスト教との関係を介して、貴所より真の更生と悔い改めの示唆なりを指導いただけないものかとお伺い申し上げます。末筆ながら皆様のご多幸をお祈り申し上げます。(Kさん)

●主の御名を賛美いたします。つくづく私たち受刑者は神さまの愛によって恵まれています。一日三食の温かく、美味しいご飯をただで頂いており、生活のすべての保証を与えられています。こんなにも神さまに慈しんで頂いて、余程わたしたちは、この無条件かつ見返りのない愛、恵みに、刑期を務めるクリスチャンとしての在り方、良くも悪くも私という人間が、誰かに影響を与えている、そのことをよく考慮し、主イエス・

キリストの真の愛の証し人としての在り方を模索しながら毎日、生かされて参ります。日々、思うこと、多々あります。それでも、主イエスさまの生き方、死に方、考え方に従おう、どんなに拙い歩みでも。

私は今、ほんとうに幸せです。人生のなかで、こんなに幸福感で支配されているのは、この刑務所に来てから始まったものです。もちろん、この十年、つらいこと、目の前の苦しみから逃げてしまった自分の情けなさ、悔しさ、泣いて噛みしめたこと、ほんとうにありました。それでも、主イエスさまは私と共にいて下さり、決してあきらめることなく、私の本心への立ち返りを実に心から待ち望んで下さったのです。

オリーブの家におられる方々が、どうか今そのすべてに対する感謝の思いを、これからの社会生活において手放すことなく、苦難のときにこそ、私たちの言動、対応、思いをつぶさに見つめておられる父なる神さまの愛の摂理を全面的に信頼して、低く、へりくだって、謙虚に生きられるように。心から祈り、信じ、神さまに感謝いたします。(Hさん)





支援者からの

寄稿



青木夫妻との出会いから

オリーブの家訪問

渡邊 禎三

平成27年3月。私と青木夫妻との出会いはハーベスト・タイムの沖縄再臨待望聖会です。聖会の席でご夫妻の紹介がありました、その時はあまり関心がなく、翌日の日曜日、沖縄S先生の教会にご夫妻も来られ、ともに礼拝をしました。ランチタイムの時間にお話を聞くことができ、「男物の服が不足しています」「皆さんぜひ熊本にきてください」とのお誘いに、「熊本に行かなくては」との思いに駆られ、「本当に行きますよ」とお伝えしました。ご夫妻は本当に来ると思っていなかったようです。

平成27年7月。衣服を段ボールに詰め、夫婦でいざ熊本へ。「荷物があるので、空港までお迎えをお願いします」という連絡に、快く迎えてくださいました。施設の見学、夕食もご馳走になり、おもてなしに感謝でした。礼拝に夫婦での参加を希望をしたところ、「女性の参加はまだないのです」とのお返事。奥様も参加されていなかったようです。その後、「良い機会になるかも」と、奥様と妻の参加が決定。ファミリーの方々と賛美と礼拝の時間を持つことができたのは

感謝でした。その後、月刊『オリーブ』紙発送の手伝いをして帰路に。以前からの知り合いのような気さくさは、ご夫妻のお人柄でしょう。このような出会いと初めての訪問以降も衣服等の物品を送り、繋がりには継続されていきました。翌年1月には「ホテルではなくオリーブの家の空室を利用してください」というご厚意からのお申し出に甘え、これを機に、訪問のたびに利用させていただいています。

平成28年4月。宣教師が帰国するのでワゴン車の処分依頼があり、ふとオリーブの家のことが浮かびました。「古い車ですが、大きな車いりませんか？」と連絡したところ、奥様の「声がそちらまで届きましたか？ いまちょうと、大きな車があったら皆一緒に出掛けられるね」と、話していたんです」とのこと。神様はなんと素晴らしいことをされるのでしょうか。お互い感謝の時でした。

そして4月9日に夫婦で交代しながら12時間運転し、熊本に到着。その6日後に熊本大地震が発生しました。これが奇跡の車となったのです。

5月中旬。避難所からオリーブの家に戻られたと聞き、翌6月にはお手伝いをしたいと訪問。二年半前から抗がん剤と糖尿病の療養生活をしている身には、以前から「ベッドがあれば、立上りが楽だし、ファミリーの中に足腰の弱い方、持病がある方もいるので楽だろう」と考えており、ベッド作りを提案。取りあえず2台をファミリーと一緒に制作しました。

8月にはさらにベッド7台を注文し、ファミリーとOBの方々と一緒に木材の買い出しをしたりと、ベッド制作の作業は楽しいものでした。

訪問するたびに初めて出会うファミリーもいます。その時々には青木夫妻、スタッフが、愛を持って接しておられることを実感しています。OBのNさんは、奇跡の車をピカピカに磨いてくれました。IさんとTさんは、ベッド制作を一生懸命手伝ってくれました。MさんとKさんは、貯蓄して次のステップに進む準備をしていると、目を輝かせて話してくれました。洗礼に向けて学びをされている方々もいます。そんな方々ばかりではなく、卒業後、再び犯罪を犯した方、途中で出ていかれた方もいると聞いて残念に思いますが、ここでの生活は、きつと無駄にはならない。ご夫妻が、体当たりでぶつかる姿を見るたびに、「ただいま」、「あの時はすみませんでした」と帰ってきてくれると信じています。

オリーブの家を応援したい、必要としてくださる限り、つながってほしい。それが私の生きる糧になっています。



プロフィール

渡邊 禎三

大阪府松原市出身

奈良県吉野郡東吉野村在住

福祉事業 ナオミ合資会社役員

6/25	6/18	6/11	6/4	日曜日 礼拝
21人	17人	17人	17人	
渡邊姉姉のすすめの言葉 『ホームレスは神の計画か?』	DVD鑑賞『パッション』	永山兄のすすめの言葉	成長セミナー1(後半) 福音の三要素	

- * 6/9 熊本学園大の萩原先生の訪問取材
- * 6/10 理事会
- * 6/14 Tさん入室
- * 6/19 南関町青少年育成連絡協議会総会で講演
Tさん退室
- * 6/22 W夫妻ご訪問、ボランティア活動で滞在
- * 6/23 「熊本県更生保護女性の集い」にて講演
- 農地使用について、自治会への説明会出席
(4名)
- * 6/25 礼拝にてW兄の誕生会
- * 6/26 機能病院の市民塾参加(9名)「日中交流学術研究会『高齢者の課題等について』」

2017年度4～6月会計報告

		4月	5月	6月
先月より繰越		1,628,196	1,363,981	967,081
収入	公的援助	865,208	648,309	650,495
	献金	538,132	544,200	449,750
	その他	254,127	73,419	141,410
収入合計		1,657,467	1,265,928	1,241,655
支出	家賃	329,500	329,500	302,500
	水光熱費	120,876	92,243	38,452 ^{*3}
	食費 ^{*1}	329,997	348,552	312,067
	人件費	773,869	723,678	1,213,419 ^{*4}
	その他経費	267,440	568,855 ^{*2}	196,943
施設準備積立金		100,000	100,000	100,000
支出合計		1,921,682	2,162,828	2,163,381
収支合計		-264,215	-896,900	-921,726
施設準備積立金より取崩		0	500,000	500,000
翌月繰越現金預金		1,363,981	967,081	545,355

6月末 施設準備積立金残 2,300,000円

- * 1 「食費等」には、調理人の派遣費が含まれます。
- * 2 「その他の経費(5月度)」にはハイエース保険料 106,460円、ハーベストキャンプ参加費(2人分) 54,000円、自動車税(3台分) 78,700円が含まれています。
- * 3 一部次月に払込を持ち越し
- * 4 「人件費(6月)」には賞与支給が含まれています。

今月号に、3ヶ月分(4～6月)の収支報告を掲載させていただきますました。「オリーブの家」の経済状況を祈りに覚えていただくためです。年度末から入室者が減り、入退室の回転も速くなっています。そのため、固定費の負担が大きくなるという厳しい現実があります。しかし、職員一同、希望をもって励んでおります。当面の目標は、刑余者を受け入れるグループホームの立ち上げです。今後とも、温かいご支援とお祈り宜しくお願い致します。

オリーブの家 理事長 青木

銀行振込

肥後銀行(銀行コード:0182)
京町支店(支店コード:156)
口座番号:(普通)1574408
口座名義:NPO法人オリーブの家
トクヒ)オリーブノイエ

郵便振替

銀行名:ゆうちょ銀行(金融機関コード:990)
口座番号:17180-5444801
口座名称(漢字):NPO法人オリーブの家
口座名称(カナ):トクヒ)オリーブノイエ
(他銀行からお振込の場合は)
店名:七一八(読み:ナナイチハチ)
店番:718
口座番号:(普通)0544480

